

した。

○議長（春田 新一君） これで、佐伯達也君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を11時5分からとします。

午前10時49分休憩

午前11時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） ちょっと花粉症で、マスクをしたまま失礼をいたします。発言が聞こえなかったら、何回でも質問しますので、よろしくお願いします。

市民の皆様、そして議会の皆様、公明の黒田昭雄です。本日は、市教委による鶏鳴幼稚園の閉園議案が最終的に取下げに至った問題について、対馬市の教育行政全体、ひいては、市長の市政運営の根幹に関わる深刻な問題として、厳しく問い正すために登壇をいたしました。

御承知のとおり、さきの議会運営委員会で、市教委が上程を予定していた鶏鳴幼稚園の閉園議案が、告示日を過ぎ、開会直前という異例のタイミングで取下げとなりました。この異例の事態は、市教委自身が策定した第2期対馬市立学校及び幼稚園等統合推進計画に明確に違反し、対馬市市民基本条例が定める説明責任を全く果たしていないという請願の趣旨が示すとおり、市民の皆様への強い働きかけの結果にほかなりません。

特に、美津島町をはじめとする地域住民の皆様が抱いた疑問は、なぜ鶏鳴幼稚園を抹殺し、厳原幼稚園に統合と方針変更がなされたのか、どんなプロセスを経て決まったのか、地域に根差した鶏鳴幼稚園を残すという選択肢は、なぜか最初から存在しないかのごとく扱われたのは一体なぜかというものでした。しかし、市長も、教育長も、この問題に対し、最後まで市民に対し、まともな説明をしようとはせず、沈黙を守り続けました。

そして、この説明責任の欠如は、第2回鶏鳴幼稚園保護者説明会における市教委の対応に、決定的に現れています。そこでは、副市長、教育部長といった市長部局並びに市教委のナンバー2が参加していたにもかかわらず、市教委が保護者に対し、いきなり「厳原幼稚園だけ残しますって言ったら、反対ではないですか。」さらに、「鶏鳴幼稚園の人、申し訳ないけど、幼稚園に行きたい人は厳原に行ってください。」と、特定の結論に誘導するかのような、到底中立とはいえない発言がなされています。

このような行政の一方的な都合を優先し、住民の多様な選択肢を十分に検討しない独断的な行政運営、そして、統合推進計画という市教委が市民と約束したプロセスを完全に逸脱しながら、

住民の公正な意思決定を阻害しようとした組織的な行為は、市長の掲げる、市民とスクラムを組んで、また、誰一人取り残さないという市政運営の基本姿勢に、真っ向から反するものであります。

私は、こうした不誠実かつ無責任な姿勢が、対馬市民の皆様の信頼を根底から裏切り、議会を愚弄するものであったと厳しく断じます。今回の問題は、執行部、議会、そして市民との信頼を根底から破壊する極めて重大な事態であり、市長並びに教育長の最終的な責任が問われるものですが、さきの本会議で謝罪を述べられましたので、本日は、この謝罪によってどこが改善されるのか、具体的に話を進めさせていただきたいと思っております。明確かつ誠実な御答弁を強く求めたいと思っております。

それでは、通告に従いまして、一般質問させていただきます。

市民に対する行政の説明責任と合意形成プロセスについて、市教委が行う公立幼稚園の統廃合方針決定プロセスにおける、地域住民に対する説明責任及び合意形成の取組状況について、市の見解を伺いたいと思っております。

私はこの件に対して、本定例会の初日に、市教委の一連の行為が、市民の皆様の中に大きな疑問と不信感を生んでいることを指摘させていただきました。公立幼稚園の統廃合においては、保護者や地域住民などの関係者と合意形成を図りながら検討することが重要であると広く認識されています。

そして、特に対馬市においては、教育長も自ら作ったといわれた統合推進計画において、十分な説明及び協議を行い、理解及び協力を求め、進めていくとはっきりと明記されています。しかし、今回の幼稚園の統廃合方針決定プロセスにおいては、残念ながら、この計画に掲げられた説明責任と合意形成が十分に果たされたとは言い難い状況です。

そこで、教育長にお伺いします。市教委は、今回の公立幼稚園統廃合方針決定プロセスについて、本当に市民の皆さんにきちんと説明し、皆さんの納得を得られた進め方ができたと、教育長自身、今のお考えでしょうか。よろしくお願ひします。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） おはようございます。黒田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、対馬市立厳原幼稚園と対馬市立鶏鳴幼稚園の統合につきまして、そこに至るまでの経緯について、まずは御説明をいたします。

令和7年5月現在の市内こども園、幼稚園、保育所の入園児童数は、定員1,248人に対しまして、入園児数726人でございます。そのうち、幼稚園に関する状況といたしましては、比田勝こども園の幼稚園部が、定員54人に対し、入園児童が12人、鶏鳴幼稚園は、定員105人に対し、入園児数は9人、厳原幼稚園は、定員105人に対し、入園児数は10人にな

っております。

このような状況ではございますが、教育委員会といたしましては、各園において適切に教育課程を編成することにより、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実情に即して丁寧に教育活動を行っております。

しかしながら、幼稚園児の減少が加速し、クラスの規模が小さくなることで、同年齢に応じた教育プログラムや活動に制限が生じ、友達との協力やコミュニケーション、さらに運動能力の発達に影響を与えることが想定されることから、幼稚園の今後の在り方、また、方針について、保護者の皆様への説明を行ってまいりました。

保護者説明会を開催するに当たり、事前に、令和7年1月に開催されました議員全員協議会におきまして、就学前児童に係る幼児教育・保育教育に係る運営方針についてを御説明いたしたところでございますが、その内容をもって、保護者説明会を開催いたしました。

議員も御存じのとおり、保護者説明会については、両幼稚園ともに3回の説明会を実施いたしました。その中で、様々な御意見、御要望をお受けし、それらの内容について、協議、検討の結果、最終的には、当初の方針を見直し、幼稚園の適正規模での運営のため、鶏鳴幼稚園を施設が新しい巖原幼稚園と統合することで、保護者の皆様からの御理解をいただいたところでございます。

これまで、以上のような内容で業務を進めてきた状況の中で、このたび、議員から御指摘がありました地域との合意形成についてでございますが、当初、教育委員会といたしましては、小学校及び中学校と違い、幼稚園については校区の設定がないことから、地区の限定が難しいこと、小中学校の統廃合では、地区との合意書を取り交わしていますけれども、幼稚園の統廃合の場合は、これまでも地区との合意書は取り交わしていないということなどによって、保護者、皆様からの御理解をいただいたことで、業務を進めていたところでございます。

しかしながら、御指摘の内容について、再度確認をいたしましたところ、先ほど議員からお話がありました第2期対馬市立学校及び幼稚園等統合推進計画の中では、幼稚園においても、統合推進計画を進めるに当たり、保護者説明会、地区説明会の順に、学校・幼稚園等の関係者及び関係地区住民に十分な説明及び協議を行い、理解及び協力を求めて進めていきますというふうに示されておりました。この内容について、認識が欠けた状態で、業務を進めていたという状況でございました。

つきましては、本来取り組むべき事項でございました地区説明会の開催とともに、地区関係者皆様からの御理解をいただくように、改めて取り組んでまいります。

このたびの事案につきましては、業務の認識不足により発生をしたものでございます。教育委員会におきましては、今後の業務遂行につきまして、より適正に、また、より丁寧に業務に取り

組み、市民皆様からの信頼回復に努めてまいります。

このたびは、地区関係者の皆様、大変御心配を、あるいは御迷惑をおかけいたしましたことに対しまして、心からおわびを申し上げます。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 随時、再質問をさせていただきたいと思います。

初めの再質問は、こっち見てもらって結構ですけど、多分要旨ない話だと思います。平等というか、公平性というか、そのことについてお話ししたいと思うんですけども、いつも部長さん、お並びですけども、対馬市の政策するときには、やっぱり平等というのが物すごく観点が深くて、私たち、素人っていったらいかんですけど、平等の観点というのは、皆さん方から非常に勉強させられるというか、ここまで平等、公平というのを考えるのかということ認識させられるわけですけども、国においては、震災が起こりますと、国民がしっかり整列して並んで待ってる食糧支給ですかね、ああいうのは世界中から物すごく称賛されるわけですけども、その称賛されるというのは、皆さん方がやっぱり平等にしてくださるということを市民が思うから、安心して並ぶわけですけども。

例えば、今回の鶏鳴幼稚園の話に移りますけども、保護者の強い要望によって1園になったと。それは、私も統合というのは何も否定しないし、いいことだと思います。でもですよ、1園になったら、誰が考えても鶏鳴幼稚園、美津島町の方は、やっぱり教育施設を残してほしいというのは思うわけじゃないですか。それを完全に皆さん方、無視をしました。

そして、無視の内情ですかね、保護者説明会の内容は、多分私がこうやって発言してるから、やっとな市民の皆さんもわかってきたと思いますけども、本当に内密で、独断的に、厳原幼稚園に統合を持っていったと。こんな話、ないじゃないですか。公平ではないじゃないですか。

そして、私も一般質問のヒアリングを部長、課長とずっと取ってた間、やっぱりこれは地域説明会をするべきじゃないですかと、何回か言ったと思います。でも、線引きがどうのこうのと言って、しませんでした。最終的に、やっぱり言質を取らないかんということで、本会議1か月前に、本当にしないんですかと言ったら、しませんということだった。ここまで放置していいんですか、公職にある皆さん方がですよ。ひどいことじゃないですか。

そういった統合推進計画にしても、これは地域の話とかじゃない、これは請願者の代表者からも指導いただきましたけども、これはひとえに子どもの教育のためですよと、そのためにこの統合推進計画をつくったと。でも、統合推進計画に則らないことばかりして、子どものためにもなってない、かつ、市民にもお知らせしない、ここまでしていいのかなと、ひどいことじゃないですか。そういった美津島町民、児童さんにどういう感情を持っているのかなと。率直にお答え

ください。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 議員さんおっしゃるとおりです。もうこれについては、私としては弁解のしようがない。この統合プロセスについて、地域住民の方の説明会を完全にすっ飛ばしてしまってたというのは、これは事実であります。

私も、そういう問合せを受けたときに、これは必要あるのかなとも思ってしまった。というのは、先ほど答弁で申し上げたような理由が根底にあって、完全に思い違いをしていたというところで、これについては、議会最初の日、議員さんから御指摘を受けて、謝罪をいたしたところでございます。

公平にということについての考え方をというふうなことでございましたので、それに対して私の考えを申し述べたいと思いますが、確かに両園の園児が、それぞれの園で過ごすことが最もいいと思うんです。それは議員さんも御理解いただいていると思います。

一方で、幼稚園教育という全体像から見ると、やはり先ほど申し上げたような人数の少なさ、このことによって、本来、子どもたちが獲得すべき資質、能力、そういったものが、今も、もちろん十分に幼稚園のほうでは配慮してやってくれていると思うんです。少人数なら、少人数なりの利点を生かして、丁寧な保育をしていただいていると思うんです。

しかしながら、やはり子どもの数が少ないというのは厳しいということで、じゃあ、どちらか残そうと、保護者からのそういう要望もございました。ぜひ、どっちでもいいから残してくれという要望があったので、厳原幼稚園を残して、鶏鳴幼稚園と統合。主な要因は、施設の新鮮さです。これがまず、一番に掲げられることかなというふうに思っています。

議員おっしゃるとおり、平等はもちろん大事です。一方で、子どもたちのことを私も考えないわけじゃありません。幼稚園教育をもっと充実させるためにはどうすればいいかという視点で考えたときに、それぞれの都合はありますけども、ここは子どもたちと一緒に学ばせることのほうがより価値があるというふうに判断をいたして、このような形になりました。

しかしながら、先ほどから御指摘あっておりますように、地域、地区に対する説明会を完全に飛ばしておりました。これは間違いなく、行政担当者としての大失態でございます。そこは深く反省をして、二度とこのようなことがないように、鋭意、丁寧な説明に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 何度も言っていますけれども、統合については賛成をしております。今回、議案を上程をいたしましたよね、鶏鳴幼稚園の閉園議案。普通、議会の常識とい

ますか、慣例といいますか、ちゃんと手続が整って、議会に上程するものと我々は考えております。全部整えられたんですか。

○議長（春田 新一君） 教育部長、扇博祝君。

○教育部長（扇 博祝君） 失礼いたします。当初、議案として提案させていただいた時点では、先ほどから、教育長のほうからもおわびをしておりますけども、こちらの認識が欠けた部分の状況で進めておりまして、議案提案時点では、こちらのほうとしては、提案する状態に至ったという判断で提案させていただいたところでございますけども、議員のほうから指摘をいただいた部分について確認いたしましたところ、こちらのほうの不適切な対応という部分が出てまいりましたので、改めてそこを見直して、鶏鳴幼稚園の閉園についての部分について、修正のお願いをさせていただいたところでございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 次へ移ります。

佐伯議員と私、黒田は、紹介議員となり、これは大浦議員は所管だったから、代表者から御指導を随時いただきながら、美津島町の区長及び民生委員、児童委員の皆様から、実に96.6%に当たる56名もの署名をいただいた請願書が提出をされました。

この請願は、鶏鳴幼稚園の閉園議案の上程に当たり、議決をする前に地区説明会を開催し、丁寧に説明と協議を行うことを強く求めていました。この請願は個人の要望ではなく、地域の中核を担う方々からの極めて強く、そして広範な意思表示であると認識しています。教育長は、この請願書の重みをどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 請願書、私も拝見をいたしました。市民の皆様からの強いお叱りの言葉であるというふうに認識をいたしました。行政プロセスの透明化、あるいは、地区に対する丁寧な説明というものを強く求めておられるものというふうに理解をしております。今後、こういった御意見を踏まえながら、真摯に対応してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 次へ移ります。

教育部長の議案取下げの説明によりますと、一言で言うと、統合推進計画に違反があったということですね。その具体的な部分を教えてください。そして、市民基本条例については何も触れてなかったわけですけども、では、市民基本条例については、違反はなかったと判断されているのですか。

○議長（春田 新一君） 教育部長、扇博祝君。

○教育部長（扇 博祝君） 統合推進計画の中での計画に対しての業務の不備なところにつきましては、今から読み上げさせていただきます。

統合計画書の中で統合の進め方といたしまして、「統合協議期間」という項目がありまして、「計画を進めるに当たり、保護者説明会、地区説明会の順に、学校、幼稚園等の関係者及び関係地域住民に十分な説明及び協議を行い、理解及び協力を求めて進めていきます。十分な統合準備期間を確保するために、第2期対馬市学校及び幼稚園等統合推進計画では、統合協議期間1年を2年に変更いたします。」。

（2）といたしまして、「統合準備期間」というのがございます。「保護者や地域関係住民に統合の合意を得られたら、区長との合意、統合合意書を締結して、1年程度の準備期間を設け、次のように統合を進めていきます。」というような項目がございまして、この中で（1）番の統合協議期間の中での地区説明会、また、関係地域住民の皆様には十分な説明を行い、理解をいただくという部分について、こちらの認識が欠けておりましたので、こちらが不適切な対応となっておりますこと、議案の取下げ等を行ったところでございます。

市民基本条例におきましても、市民の皆様には、十分なその行政の情報提供、あるいは理解を求めるといったことがございますので、基本的にはそちらのほうも、対応のほうが不足していたという認識を持っております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 次へ移ります。

請願書が提出されたのは2月16日です、ここに受付してもらったのが。それ以降、教育委員会として、請願によって何か具体的に検討した点はありますか。もしあれば、その内容をお聞かせください。なければ、なしでいいです。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） お答えいたします。

先ほどの請願を受けて、速やかに地区説明会を開催するよという書面で、そういう請願が出ておりました。現段階で、教育委員会といたしましては、3月中の地区説明会を想定しております。

その場で、範囲としては、これは言わなくてもいいのか、言ったほうがいいのか分かりませんが、請願として、56名の区長さん方、あるいは民生委員さん、児童委員さん方から署名をいただいているということでしたので、現在の鶏鳴幼稚園の通園区域というのは、鶏鳴小、遠くて難知中校区であることは承知はしておりますけども、そういうふうな請願をいただいたということを受けて、この3月中に開催する地区説明会は、美津島町全域を対象に地区説明会を開催したい

というふうに考えております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） この答弁の内容については、後でお話をさせていただきたいと思っております。

請願について、最後になりますけれども、請願についてですよ。請願の最後のほうに、不都合な真実があるんじゃないかと。それはそうですよね、市民の皆さん、そう感じますよね。ここまでかたくなに説明会を拒むもんですから、それは考えられますよね、間違いなく。

皆さん方は、普通の人より公平にする方ですから、その方が公平にしないわけだから、勘ぐるのは間違いありません。そういうその疑念というのは、皆さん方が一番嫌う疑念だと思うんですけども、それをずっと放置してましたけれども、どうしてでしょうか。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 繰り返しになりますけれども、決してかたくなにということではないんです。後ろに何かあるんじゃないかというような、背景についての御質問ですが、一切ございません。結論から言えば、本当に行政手続をすっ飛ばしたというのがもう実情でございまして、この点については、それをもって住民の方々の意見を軽視したと言われれば、もうそれはそれまでと、ごめんなさいとしか言いようがない。

しかしながら、その背後云々ということについては、不誠実云々ということについては全くなくて、本当に行政上の手続のミスということでございます。御理解をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 次へ移ります。

市教委では、久田幼稚園の閉園や比田勝幼稚園のこども園化の際には、さらには、所管は違えど、保育所でも地区説明会を開いてきた実績があります。保育所では、過去遡って5か所調べたんですけれども、5か所とも、区長さんと呼んで説明会をしていました。田中部長さん、そうですよね。ちょっと質問する時間がないから。

しかし、今回だけです、線引きが難しいという理由で地区説明会を拒否されました。なぜ、過去の成功事例が生かされずに、今回は線引きが難しいという理由で、地区説明会をかたくなに拒否してきたんでしょうか、御説明をお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） かたくなにということでございます。捉えによってはそうなるのかもしれない。それについては、手続上のミスについては全て私の責任でございますので、この場

を借りて、平に御容赦をいただきたいというふうに思いますし、今後については、このようなことが二度とないようにやっていきたいと思しますので、ぜひ、御理解を賜りたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） これからが本題なんですけども、保護者説明会で巖原幼稚園の決定理由が、建物が比較的よいから、これだけが説明でした。この説明も決めるときではないんです。方針を決めるときには何も言ってないんです。決めた後に質問があって、初めて言っているんです。本当は協議中に言わなきゃいけない話です。皆様方から、市教委から言わないかん話です。

しかし、子どもたちの教育環境を考えるときには、お庭の広さや自然の豊かさ、静かな環境であるかといった、子どもの成長にとってたくさん大切な要素があるはずですよ。これは、学校教育課長をされていた教育長はわかりますよね。なぜ、子どもたちにとって本当に大事な視点が、十分に話し合われなかったんでしょうか。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 子どもたちの健全な育成、統合については賛成であるというお話があって。何で巖原なのかということでございます。

○議員（12番 黒田 昭雄君） いや、違います。なぜ話し合わなかったということを聞いています。巖原ではなくて、なぜ話し合わなかったのか。

○教育長（糸瀬 英俊君） 話し合わなかった。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 子どもの教育のために必要な園庭の広さとか、自然とか、交通、駐車場が広いとか、いろいろありますよね。園児のためですよ、園児のために必要な要素、園児のためのその要素が話し合われた形跡が一切ないんです。その話し合われなかったのは何ででしょうかと聞いてるんです。

○議長（春田 新一君） 教育部長、扇博祝君。

○教育部長（扇 博祝君） 保護者説明会の中で、一応、3回目の説明会の中で、鶏鳴幼稚園と巖原幼稚園を統合して、1園での運営をしていくという形で説明させていただいたわけですが、確かにその3回目の保護者説明会の中でも、教育委員会といたしましては、施設が新しく、今後の維持補修とか関係もございまして、できれば、巖原幼稚園のほうが新しいので、そちらのほうでお願いしたいというような説明をさせていただきました。

議員がおっしゃるように、その他の環境部分についての具体的な説明は行っておりませんが、実際に、私たちが意図してそこまで説明をしなかったわけではございません。そこまでちょ

っと考えのほうに至らなかったという部分で、申し訳なく思っております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 説明がなかったんですよ。協議してないんです。ここで、統合推進計画の理念というのを改めて、釈迦に仏法かもしれませんけども、この十分な説明及び協議を行い、理解及び協力を求め進めていきますという文言、これは、私、党の文教に本当に詳しい国会議員に指導を受けましたところ、教育長や市長の政治判断や都合によるものは排除しますよと。要するに、政治判断は許しませんよと。客観的で公平なプロセスで合意形成を図らないと駄目ですよという理念が、この1行のものに凝縮されているという指導を受けました。

教育長も関わったということですけども、うちの国会議員が、対馬の先生方は素晴らしい人ですと、こんな1行で全てを凝縮されるという。これは全て何かといたら、園児の教育のためなんです。御存じですよ。決して地域エゴとかなんか入らないように。

それを進めるに当たり、今回、資料を私が一部しましたけれども、園児が何が一番必要かという要素を話し合われていないという話でした。実際に保護者説明会であってないんですよ。誰が一番困るのかといたら、園児なんです。こういう比較検討を皆さんの手元に行くとするんですけども、鶏鳴幼稚園と巖原幼稚園、比較検討するんですけど、この選定の協議、これが一切なされていない。いわゆる園児の教育のための協議が一切なされていない、そういうことですよ。

保護者説明会で、これとは言いませんが、これに沿うような資料をそろえて、保護者の皆さんに、鶏鳴幼稚園と巖原幼稚園、子どもの教育のためにはどちらがいいでしょうかという判断資料として、こういう資料が必要じゃないんですか。まず、選定の協議をしていない、選定の協議するための資料も作っていない、これで協議ができるんですか。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 大変貴重な資料を作っていただいたというふうに思っています。教育委員会、私も教員上がりですけども、子どもたちのことを考えてということで、いろいろ考えておりますが、今、議員御提示のような深掘りしたところまでは、残念ながら、私の能力不足によって至っていないところもございます。

今後、地区の説明会を実施するに当たっては、この議員御提案のことも含めて精査をいたしまして、できるだけ客観的になる部分は客観的な資料を添えて、地区の説明会に臨みたいというふうに思っております。

なお、ここの中にあります地域コミュニティーとの結びつき、それから、歴史、伝統、これも非常に重要なものであります。こういったことについては、両園にもそれぞれの思いがございます。

すので、なかなか比較検討というのが難しいというふうには思っております。しかしながら、非常にいい資料を頂きましたので、今後、教育委員会内部で検討いたしまして、これをもって、地区説明会にも参考資料として臨みたいと思っております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） では、このような比較検討資料をもって、厳原幼稚園がいいか、鶏鳴幼稚園がいいか、鶏鳴幼稚園を抹殺しましたけども、また復活させていただくということですよ。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 抹殺というのは、私としてもなかなか、はい、そうですかと言えるものではない。本当に行政上の手続のミスによって、こういった失態を招いてしまったということについては、本当に申し訳ないということですけども、決して鶏鳴幼稚園を抹殺しようというふうに思っているわけではございません。

子どもたちのことを考えて、教育のことを考えて、ベストはないけど、ベターはないのかなっということ考えた挙げ句の判断ということでございますので、教育委員会の方針としては、先ほど答弁しましたとおり、令和8年度で鶏鳴幼稚園には閉園をいただいて、厳原幼稚園と統合するというこの方針には変更はございません。この後、速やかに地区説明会を開催するというところで、御了解をいただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） 話がおかしいんじゃないですか。保護者説明会で、特定の結論に誘導するような発言があったということは謝罪をされましたよね。うなずいてもらっていいです。謝罪されましたよね。いえいえ、答弁いいです。謝罪されましたよね。そうですね。

そうであればですよ、統合推進計画の精神に則って、今、地区説明会の話をしましたけど、保護者説明会も改めてやり直すべきじゃないですか。無理やり厳原幼稚園にあなたたちが決めたわけだから、それを謝罪したじゃないですか。ということは、鶏鳴幼稚園も選定候補に入れて、選定協議をしてないんだから、しなきゃいけないじゃないですか。これ、論理的に間違っていないはずですよ、謝罪したわけですから。謝罪した行動を伴わないということは、謝罪していないことじゃないですか。愚弄してますよ、それは。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 謝罪はいたしました。そのとき、私は、私の記憶がもしかしたら間違っているのかなと、議事録のとおりならということを申し上げたと思えます。もちろん議事録の

とおりになんです。ただ、そういう強引な持っていき方をしたんじゃないかということについては、議事録にその前後の言葉のやり取りっていうのももしかしたらあったのかなという意味を込めて、私は議事録のとおりならという話をして、それはそのとおりなら、ごめんなさいということをし上げてたところでございます。

実は、申し訳ないですけど、私、その場におりませんでしたので、その空気というか、そういうものをなかなか感知することができておりません。議事録のとおりならば、そのことについては本当に申し訳ないということで、謝罪をしたところでございます。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） この特定の結論に誘導するような発言というのは、統合推進計画違反なんですよ。違反でしょ。その違反を差し置いて、そのままこの鶏鳴幼稚園を閉園する議案を続行するというのは、本当に独裁政権じゃないですか。言い過ぎじゃないと思いますが、違反ですから、選定協議もしないと違反なんですよ。

選定協議をすっ飛ばして、選定協議をするための資料もすっ飛ばして、いきなり鶏鳴幼稚園の人、巖原に行ってくださいと言ったわけですから、前後、何もないですよ。前後はこれだけです。あとは何もないんです。そんなしらばっくれるようなことは、教育長、言わないでください。前後の脈絡ない、いきなり言って、いきなり決まったんです。こんな独裁なことはいかんとしますよ。後で、私、これ住民監査請求とか何か執行したら、続行したら、誰かすると思いますけどね。違反を見過ごしていいんですか。

○議長（春田 新一君） 教育部長、扇博祝君。

○教育部長（扇 博祝君） 失礼いたします。議員が指摘しておられます2点の誘導、2点の発言につきまして、少し説明させていただきたいと思います。

第2回の保護者明会の中での発言であったんですけども、その前後の流れといいますのが、まず、第2回目の保護者説明会においては、私どもといたしましては、令和7年度末での閉園ということを1回目で説明したんですけども、それはちょっと厳しいということで、第2回目の保護者説明会においては、その令和7年度末を令和8年度末で、1年延ばした形での御理解をいただけないかということで、第2回目の説明会に臨んでおります。

そういった中で、保護者の皆様と協議をする中で、いろいろと意見交換をする中で、保護者の方から、いきなり閉園ではなくて、どちらか一方を残す方法は取れないんですかという発言がございましたので、それを受けて、もしその説明の場が鶏鳴幼稚園であったので、もし統合するとしても、巖原幼稚園のほうになった場合は反対ではないですかというようなお尋ねです。例えばでの発言でございます。

2つ目の鶏鳴幼稚園の皆様は、巖原幼稚園に行っていただけますかというのも、そういった形で、段階的に統合が進んでいった場合には、巖原幼稚園になった場合に行っていただけますかということをお尋ねしたらどうなりますかというのは、行っていただけますかという後にも、そういった話をしたらということ、決してこちらとしては、例えの形で発言させていただいた状況でございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 12番、黒田昭雄君。

○議員（12番 黒田 昭雄君） いかなる理由があっても、選定協議はしなきゃいけないんです、統合推進計画に則れば。無理やりな誘導もしちゃいけないんです。弁解していましたが、そういうこともしちゃいけないんです、この理念からいったら。

最後に、教育長に、もう1分しかないのをお願いをしてやめたいと思います。教育長、今回、これだけの問題を起こしてしまった以上、地区説明会にどのような方々を呼びかけるのか、市民も注視していると思います。

学校教育に精通した見識のある方、美津島町いっぱいいらっしゃいます。行政経験が豊富で、苦言を呈してくれそうな方が、委員として人選されることを期待しているものと考えています。信頼回復のために教育長は、そういう人選をしてくれるものと信じております。そういう人選をしなければ、何も反省しなかったんだと捉えて、涙を飲んでこらえておきます。

以上、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、黒田昭雄君の質問が終わりました。

○議長（春田 新一君） 昼食休憩とします。再開を午後1時5分からとします。

午前11時56分休憩

午後1時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） 皆さん、こんにちは。4番議員、東圭一でございます。いつもと同様、少し時間をいただいて質問に移りたいと思います。

先ほどもあった請願についてですが、内容はどうであれ、行政側が何度も何度も頭を下げなければならぬものならば、そして、これが市民発信ということなので、なおさら、私たち市議会議員全て行政を監視する役でありますので、監督不行き、指導不足として、まずもって皆様に頭を下げなければなりません。誠に申し訳ありませんでした。

幼稚園の問題でいろいろとありますが、我々が何を言っても、一番大事なのは子どもの教